

いの町史編さん室だより(No.24)

厳しい暑さが続いています、皆さんいかがお過ごしでしょうか。町の合併10周年を目標に「いの町史」の編さんの作業を進めている町史編さん室ですが、いよいよ作業も大詰めとなってきました。町内外の皆さんのご協力もあり内容も盛りだくさんな町史となっております。

それでは、町史編さん業務で気付いた話をどうぞ。

編さん業務で気付いた

「上八川郷の領主となった片岡直季」

編さん委員 筒井 秀憲

平成23年に始まり10月に発刊予定で進んでいる町史編さん事業。いよいよ最終を迎え80%前後のレイアウト率(6月時点)ですが、この原稿が広報に載る8月にはすべてレイアウトも完了していることと思います。

さて今回は、私の住む上八川柚野木野にまつわる話が吾北村史に載っているので紹介します。

「永禄2年(1559)上八川郷の領主となった片岡直季は、和田氏が居城した程野城とは反対側の、谷を距てた柚野木野に居館した。これは、先の和田氏が西からの片岡氏等、和田氏に対立する土豪の攻撃に備えて、外堀的役割をもつ清水川(谷)を距てて東の程野に築城したように、片岡直季は、逆に東からの本山氏の再侵攻に備えて清水川(谷)を距てて、西の柚野木野に土居館を築いたのである。

直季は、柚野木野に土居館を築城するとともに、上八川の東端の小申田に戸城を、また同じく上八川の西端の木ノ瀬に木ノ瀬城という二つの出城を築いた。両城はともに望楼を兼ね、非常の場合は烽火をあげて連絡を取り合った。ちなみにこの東西両城いずれに登っても、その頂上からお互いの城が指呼の間に見える。この二つの出城は、永禄7年(1564)東の本山氏が滅亡するまでその役割を持っていた。直季の土居館及び二つの出城は長宗我部地検帖にも記録されている。

ついで直季は、清水村を含む上八川村の領主として治政を進めて行くうえで、もともと清水や津賀才一帯に勢力を張っていた首藤山内一族と政治的妥協をしなければならなかった。そのため直季は清水の山内丹後守の女を娶って婚を通じた。こうして片岡氏は清水、津賀才の支配権を確立する。戦国時代の政略結婚は、政争の道具とされて中央・地方どこでも盛んだった。」

「直季が上八川統治上どういう民政をしたかの資料口碑は少ないが、戦国時代における各地の小領主たちの領内統治課題は、大きく2つに絞られていた。第一は軍事力を強めるための兵糧確保、民生安定としての米作の量を高める。そのために水田開発を積極的に進める。第二は、領民慰撫のための神社仏閣の再興だった。だから直季の治政も上八川における神社仏閣の再建や開基を盛んに行った。一方領内の棚田水田の開発も積極的に進めた。

直季の父、片岡茂光は高岡郡黒岩城にあって、領内に善政を行ったといわれているが、なかでも、郷内各地に領民や一般の旅人のために、交通上の領地に茶園堂を建て、旅人に湯茶の接待をさせたという記録が残っている。上八川寺野の地藏堂も、もと茶園堂だったという口碑が残っているが、これも父茂光にならった直季の行政の一つだったろう。

上八川柚野木野にあった安養寺は、直季が上八川領主となってから開創した持仏寺である。今はこの寺は上八川寺野に移っている。直季はまた、上八川本神神社の再建及び津賀谷、西川、大窪、田野々に川内神社を建立している。その他寺堂、小社を再建したり建立したりしている。」

以上のような事柄が載っていました。現在も片岡紀伊守直季墓碑は、吾北総合支所の上にあります。もう少しで町史が発刊されます。それぞれの地域の往事を偲んでみてはいかがでしょうか。なお、旧町史、村史も合わせて読んでいただければ良いと思います。



問い合わせ・連絡先

社会教育課 町史編さん室(内線 31)

☎ 893 - 2012

FAX 893 - 2013



職種 介護員
受験資格 昭和60年4月2日以降に生まれた人で、2級ヘルパー以上の認定を受けている人又は2級ヘルパーと同等かそれ以上の資格(介護福祉士など)を有する人(平成27年3月31日までに認定を受け又は資格を取得する見込みの人を含む。)

職種 病院事務
受験資格 昭和55年4月2日以降に生まれた人で、診療情報管理士の資格を有する人(平成27年3月31日までに資格取得見込みの人を含む。)

お詫びと訂正
広報7月号に掲載しました、いの町職員採用試験案内の受験資格の内容に誤りがありましたので、次のとおり訂正します。